

指導資料

 鹿兒島県総合教育センター

国語 第119号

- 小・特別支援学校対象 -
平成23年4月発行

国語科における指導と評価

～ 「読むこと」の評価規準の設定を例にして～

新学習指導要領では、確かな学力を育成するために、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視することが求められている。また、各教科等の指導に当たっては、児童の自発的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められている。そのためには、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導を展開しながら学習評価をし、それを次の学習指導の改善につなげるという指導と評価の一体化を図った授業改善を促進する必要がある。

本稿においては、新学習指導要領の趣旨を踏まえた国語科の指導と評価の在り方について述べる。

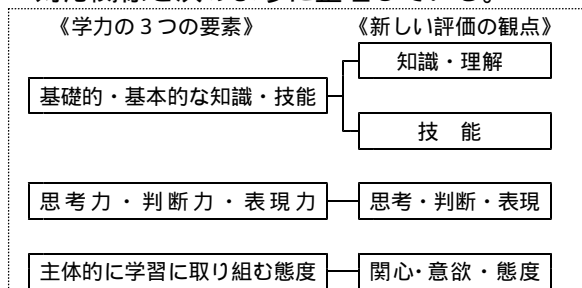
1 国語科の指導の重点

国語科では、言語の教育としての立場を一層重視し、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることなどに重点をおいて内容の改善が図られた。改訂の主な内容として、「内容の構成の改善」「学習過程の明確化」「言語活動の充実」「学習の系統性の重視」などが挙げられる。自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視し、学習過程を明確にして指導

事項を示したり、指導事項に示す国語の能力を確実に身に付けることができるよう、学習指導要領の内容の(2)に日常生活に必要とされる言語活動を具体的に例示したりしている。これからの国語科の授業では、自ら学び課題を解決していく能力の育成を重視し、言語活動を通して指導事項を指導することを一層推進していくことが求められている。(言語活動の充実を図る国語科指導の在り方については、指導資料116号を参照。)

2 国語科における学習評価の考え方

平成22年3月に出された「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(以下「報告」という。)では、学習指導要領等で定める学力の3つの要素と新しい評価の観点との対応関係を次のように整理している。



特に、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、表現する活動と一体的に評価する観点「思考・判断・表現」を設定することとし、観点別学習状況の観点については、従

来の「思考・判断」を「思考・判断・表現」と改めることとした。

また、「報告」では、国語科の評価の観点に関して、次のように述べている。

現在の評価の観点で言えば、「言語についての知識・理解・技能」は、基礎的・基本的な知識・技能に着目した観点と位置付けられる。

「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を学習指導要領の内容のまとまりに合わせて、基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けることが適当である。

こうした考えの下に、国語科の五つの評価の観点及びその趣旨は次のように設定されている。

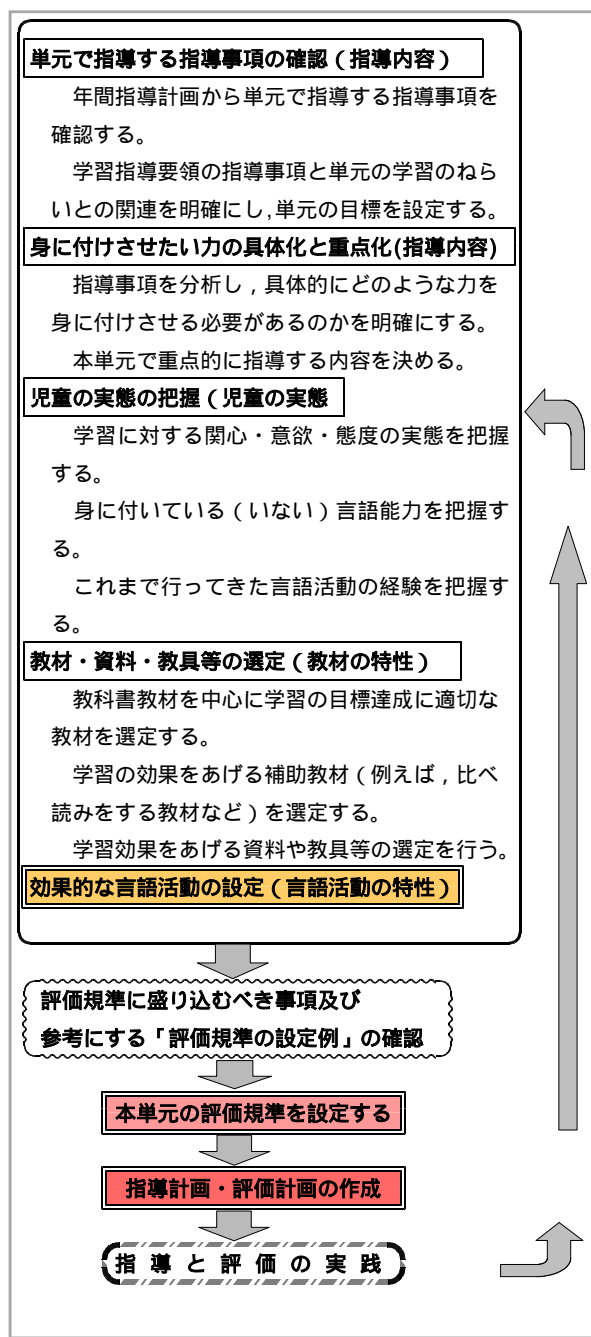
観 点	趣 旨
国語への 関心・意欲・ 態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。
話す・聞く 能力	相手や目的、意図に応じ、話したり聞いたり話し合ったりし、自分の考えを明確にしている。
書く能力	相手や目的、意図に応じ、文章を書き、自分の考えを明確にしている。
読む能力	目的に応じ、内容をとらえながら本や文章を読み、自分の考えを明確にしている。
言語につい ての知識・ 理解・技能	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて書いている。

これらの評価の観点の名称は、従前どおりである。児童の学習状況をとらえる観点として、学習指導要領の内容のまとまりに合わせて「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」等を設定しており、これらの観点に基づいて学習指導要領の内容(2)に示す言語活動例を基に、具体的な言語活動を通して指導事項を指導し、それを評価することになる。授業の中では、単元で扱う指導事項を明らかにし、言語活動を通して確実に指導し、それを評価し次に生かすということを螺旋的に積み上げながら能力の定着を

図ることを基本としている。

3 授業の構想と評価の基本的な進め方

授業を構想する際は、目標を明確にして目標と指導を関連付けるとともに、それに対する評価規準を設定する必要がある。国語科の授業を構想する流れを示すと次のようになる。



当該単元で指導する指導事項及び身に付けさせたい力を明らかにし、その上で児童の実態や単元で取り上げる教材の特性などを踏ま

えて、効果的な言語活動を設定する。さらに単元の評価規準を設定し、評価方法を具体化した上で授業を行っていく。こうすることで、目標と指導が関連し、目標に準拠した評価を進めることができる。

4 評価の具体例

「評価規準の作成のための参考資料（小学校）」の「評価規準の設定例」を活用して評価規準を設定する手順について具体例を基に述べる。

(1) 単元名

「本は友達」（光村図書 4 年上）

(2) 本単元のねらい

本単元は、「C 読むこと」の言語活動

例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること」を通して、指導事項「カ 目的に応じていろいろな本や文章を選んで読むこと」「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりすること。」等を指導する。

(3) 評価規準の設定の手順

国語科では、単元で指導する領域に応じて対応する観点を取り上げて単元の評価規準を設定する。そこで本単元では、「C 読むこと」の評価規準の設定例の「エ『紹介したい本を取り上げて説明する言語活動』を通じた指導」の欄の設定例を参考に評価規準を設定していくことになる。

【「C 読むこと」の評価規準の設定例】

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
エ 「紹介したい本を取り上げて説明する言語活動」を通じた指導		
<ul style="list-style-type: none"> 紹介したい本について説明するために、本を繰り返し読むなどして、改めて味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手が知らない本や、自分が読んで紹介したいと思う本について、選んだ理由を明らかにしながら読んでいる。（カ） 紹介したい内容やその理由を説明するために、中心となる語や文をとらえ、事実と意見との関係などを考えて本や文章を読んでいる。（イ） 自分が選んだ本のおもしろさを説明するために、場面の移り変わりの印象的なところや主人公の性格や気持ちの変化をとらえて読んでいる。（ウ） 紹介する理由を説明するために、ふさわしいところを引用したり要約したりしている。（エ） 紹介したい中心的な部分や場面の様子がよく分かるように、軽重や速さを工夫しながら音読し、内容を説明している。（ア） 	<ul style="list-style-type: none"> 例示された言語活動ごとに、評価規準の「設定例」が例示されている。 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。（イ(ア)） 当該の言語活動と比較的関連付けやすいと考えられるものを例示してある。 学習の過程がイメージできるように配列されている。 指導事項等の記号を（ ）内に示している。

《本単元で設定した「読む能力」の評価規準》

- 読み物には様々な文種があることを理解し、これまでの読書体験を振り返りながら読んでいる。 【読む】
- 自分が読んで紹介したいと思う本について、選んだ理由を明らかにしながら読んでいる。 【読む】
- 紹介する理由を説明するためにふさわしいところを引用したり要約したりしている。 【読む】
- 本を読んで印象に残ったことを交流し、一人一人の感じ方の違いに気付いている。 【読む】

評価規準や評価方法を組み込んだ指導計画例を示すと次のようになる。

1 単元名 本は友達 (光村 4年上)																	
2 単元の目標 (指導目標 言語活動 学習指導要領との対応) いろいろな本や文章を、目的に応じた読み方で読むことができる。 読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。 紹介したい本を選び、ポスターを作って紹介する。 読(1)工:オ:カ 伝(1)イ(ア)																	
3 評価規準 【国語への関心・意欲・態度】 ・ 目的による読み物や読み方の違いに興味をもち、いろいろな分野の本や文章を選んで読もうとしている。 【読む能力】 (前ページ参照) 【言語についての知識・理解・技能】 ・ 文種による言葉や表現の違い、内容や感想をひと言で表す言葉の働きに気付いている。																	
4 教材名 本は友達 既習教材のシリーズ本、関連本																	
5 主な学習活動 (単元の指導計画(全6時間))																	
指導 過程 交流 する ぶ り か え る 生 か す	<table border="1"> <thead> <tr> <th>次 時 間</th> <th>学 習 活 動</th> <th>指導上の留意点 教材</th> <th>評価規準()、 評価方法()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次 (2時間)</td> <td>1 日ごろの読書活動を振り返り、「友達に読んでほしい」「一緒に語り合いたい」と思った本について発表し合い、学習の見通しをもつ。 (「読書ポスター」を作って、さんへお気に入りの本をしょうかいしよう。)</td> <td>・ 学校図書館貸出カードや個人の読書記録ノートで、これまでの読書活動を振り返ったり、既習教材の再読や教師自作のポスターを見たりして、本を紹介する活動に興味をもたせる。 既習教材のシリーズ本、関連本 ・ 教材文を読み、文種や目的によって、読み方に違いがあることに気付かせる。</td> <td>これまでの読書活動を振り返り、読書ポスターを作ることに興味をもち、お気に入りの本を紹介したいという思いをふくらませている。 ・ 発表、対話の観察 ・ 文種の違いを理解し、これまでの読書体験を振り返りながら読んでいく。【言語】【読む】 ・ 発表、振り返りカード ・ 紹介したい本について選んだ理由を明らかにした上で読んでいく。【読む】 ・ ワークシート</td> </tr> <tr> <td>第2次 (3時間)</td> <td>2 物語と説明的な文章を比較して、読み方の違いを確かめるとともに、本の種類による読み方などの違いがあるのかを考え、話し合う。 3~4 本を紹介する方法の一つとしてポスターを取り上げ、紹介する本のよさや楽しさが伝わるように工夫してポスターにまとめる。 ・ ポスターを作る目的と相手を考える。 ・ ポスターの割り付けを考える。 ・ 中心となるキャッチコピーと、呼びかけのキャッチコピーを考える。 ・ 本を読み返しながら、ポスターの記事を書く。 《紹介する視点》 物語本紹介は こんなところを… ・ 登場人物 ・ あらすじ、できごと ・ 紹介したい理由 ・ 書き抜きや引用、要約 登場人物の性格 気持ちの変化 美しい情景描写 紹介したい理由からカードに記録する。 登場人物は小カード1枚に一人を記録する。 書き抜きや引用したいところは、付箋で色分けする。</td> <td>・ ひな型となるポスターの割り付けを示す。 ・ 同じ本をポスターにしても、紙面構成や記事の内容が異なるおもしろさに気付かせる。 ・ ポスターの見出しや記事などが、それぞれ本を読むときに気付きがせる。 ・ 紹介する本のよさや楽しさを伝えるために効果的な事柄を考えさせ、何を紹介するのかを決めさせる。 ・ 感動した文や文章を引用して自分の感想につなげていくよう助言する。 ・ 相手に呼びかける言葉や構成を考えるよう促す。 呼びかけの言葉カナル 《評価シート例》 紹介する理由ははっきりしているか 引用、要約はふさわしいところか 工夫したキャッチコピーだったか よさが伝わったか</td> <td>・ 選んだ本のおもしろさを説明するために、ふさわしいところを引用したり要約したりしながら読んでいく。【読む】 ・ 相互評価シート ・ 紹介する本のよさや楽しさを伝えるために、内容や感想をひと言で表す、自分なりのキャッチコピーを考える。【言語】 ・ ポスター ・ 相互評価シート 紹介する本について、選んだ理由や説明するために引用したり要約したりした部分が、ポスターに適切に位置付けられている。【読む】 ・ 児童の付箋紙による相互評価 ・ 読んだ感想はどの叙述に基づいているか、自分の経験などどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。【読む】 ・ ワークシート</td> </tr> <tr> <td>第3次 (1時間)</td> <td>5 作ったポスターを紹介し合い、読んで感想を述べ合う。 ・ 読んでみたい本の発表 6 教材文「がげ」を読み、キャッチコピーを付けて紹介し合い、交流する。 ・ 印象に残ったところ ・ これまでに学んだ物語文との比較 ・ 一人一人の感じ方についての違い</td> <td>・ できあがったポスターのよさを見つけ、付箋紙に記入し貼らせる。 ・ 文章を読んで考えたことを発表させ、一人一人の感じ方に違いのあることに気付かせる。 ・ 本単元の学習を振り返り、これからの読書に生かしていきたいことを発表し、日ごろから本の紹介をし合うよう意欲付ける。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	次 時 間	学 習 活 動	指導上の留意点 教材	評価規準()、 評価方法()	第1次 (2時間)	1 日ごろの読書活動を振り返り、「友達に読んでほしい」「一緒に語り合いたい」と思った本について発表し合い、学習の見通しをもつ。 (「読書ポスター」を作って、さんへお気に入りの本をしょうかいしよう。)	・ 学校図書館貸出カードや個人の読書記録ノートで、これまでの読書活動を振り返ったり、既習教材の再読や教師自作のポスターを見たりして、本を紹介する活動に興味をもたせる。 既習教材のシリーズ本、関連本 ・ 教材文を読み、文種や目的によって、読み方に違いがあることに気付かせる。	これまでの読書活動を振り返り、読書ポスターを作ることに興味をもち、お気に入りの本を紹介したいという思いをふくらませている。 ・ 発表、対話の観察 ・ 文種の違いを理解し、これまでの読書体験を振り返りながら読んでいく。【言語】【読む】 ・ 発表、振り返りカード ・ 紹介したい本について選んだ理由を明らかにした上で読んでいく。【読む】 ・ ワークシート	第2次 (3時間)	2 物語と説明的な文章を比較して、読み方の違いを確かめるとともに、本の種類による読み方などの違いがあるのかを考え、話し合う。 3~4 本を紹介する方法の一つとしてポスターを取り上げ、紹介する本のよさや楽しさが伝わるように工夫してポスターにまとめる。 ・ ポスターを作る目的と相手を考える。 ・ ポスターの割り付けを考える。 ・ 中心となるキャッチコピーと、呼びかけのキャッチコピーを考える。 ・ 本を読み返しながら、ポスターの記事を書く。 《紹介する視点》 物語本紹介は こんなところを… ・ 登場人物 ・ あらすじ、できごと ・ 紹介したい理由 ・ 書き抜きや引用、要約 登場人物の性格 気持ちの変化 美しい情景描写 紹介したい理由からカードに記録する。 登場人物は小カード1枚に一人を記録する。 書き抜きや引用したいところは、付箋で色分けする。	・ ひな型となるポスターの割り付けを示す。 ・ 同じ本をポスターにしても、紙面構成や記事の内容が異なるおもしろさに気付かせる。 ・ ポスターの見出しや記事などが、それぞれ本を読むときに気付きがせる。 ・ 紹介する本のよさや楽しさを伝えるために効果的な事柄を考えさせ、何を紹介するのかを決めさせる。 ・ 感動した文や文章を引用して自分の感想につなげていくよう助言する。 ・ 相手に呼びかける言葉や構成を考えるよう促す。 呼びかけの言葉カナル 《評価シート例》 紹介する理由ははっきりしているか 引用、要約はふさわしいところか 工夫したキャッチコピーだったか よさが伝わったか	・ 選んだ本のおもしろさを説明するために、ふさわしいところを引用したり要約したりしながら読んでいく。【読む】 ・ 相互評価シート ・ 紹介する本のよさや楽しさを伝えるために、内容や感想をひと言で表す、自分なりのキャッチコピーを考える。【言語】 ・ ポスター ・ 相互評価シート 紹介する本について、選んだ理由や説明するために引用したり要約したりした部分が、ポスターに適切に位置付けられている。【読む】 ・ 児童の付箋紙による相互評価 ・ 読んだ感想はどの叙述に基づいているか、自分の経験などどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。【読む】 ・ ワークシート	第3次 (1時間)	5 作ったポスターを紹介し合い、読んで感想を述べ合う。 ・ 読んでみたい本の発表 6 教材文「がげ」を読み、キャッチコピーを付けて紹介し合い、交流する。 ・ 印象に残ったところ ・ これまでに学んだ物語文との比較 ・ 一人一人の感じ方についての違い	・ できあがったポスターのよさを見つけ、付箋紙に記入し貼らせる。 ・ 文章を読んで考えたことを発表させ、一人一人の感じ方に違いのあることに気付かせる。 ・ 本単元の学習を振り返り、これからの読書に生かしていきたいことを発表し、日ごろから本の紹介をし合うよう意欲付ける。	
次 時 間	学 習 活 動	指導上の留意点 教材	評価規準()、 評価方法()														
第1次 (2時間)	1 日ごろの読書活動を振り返り、「友達に読んでほしい」「一緒に語り合いたい」と思った本について発表し合い、学習の見通しをもつ。 (「読書ポスター」を作って、さんへお気に入りの本をしょうかいしよう。)	・ 学校図書館貸出カードや個人の読書記録ノートで、これまでの読書活動を振り返ったり、既習教材の再読や教師自作のポスターを見たりして、本を紹介する活動に興味をもたせる。 既習教材のシリーズ本、関連本 ・ 教材文を読み、文種や目的によって、読み方に違いがあることに気付かせる。	これまでの読書活動を振り返り、読書ポスターを作ることに興味をもち、お気に入りの本を紹介したいという思いをふくらませている。 ・ 発表、対話の観察 ・ 文種の違いを理解し、これまでの読書体験を振り返りながら読んでいく。【言語】【読む】 ・ 発表、振り返りカード ・ 紹介したい本について選んだ理由を明らかにした上で読んでいく。【読む】 ・ ワークシート														
第2次 (3時間)	2 物語と説明的な文章を比較して、読み方の違いを確かめるとともに、本の種類による読み方などの違いがあるのかを考え、話し合う。 3~4 本を紹介する方法の一つとしてポスターを取り上げ、紹介する本のよさや楽しさが伝わるように工夫してポスターにまとめる。 ・ ポスターを作る目的と相手を考える。 ・ ポスターの割り付けを考える。 ・ 中心となるキャッチコピーと、呼びかけのキャッチコピーを考える。 ・ 本を読み返しながら、ポスターの記事を書く。 《紹介する視点》 物語本紹介は こんなところを… ・ 登場人物 ・ あらすじ、できごと ・ 紹介したい理由 ・ 書き抜きや引用、要約 登場人物の性格 気持ちの変化 美しい情景描写 紹介したい理由からカードに記録する。 登場人物は小カード1枚に一人を記録する。 書き抜きや引用したいところは、付箋で色分けする。	・ ひな型となるポスターの割り付けを示す。 ・ 同じ本をポスターにしても、紙面構成や記事の内容が異なるおもしろさに気付かせる。 ・ ポスターの見出しや記事などが、それぞれ本を読むときに気付きがせる。 ・ 紹介する本のよさや楽しさを伝えるために効果的な事柄を考えさせ、何を紹介するのかを決めさせる。 ・ 感動した文や文章を引用して自分の感想につなげていくよう助言する。 ・ 相手に呼びかける言葉や構成を考えるよう促す。 呼びかけの言葉カナル 《評価シート例》 紹介する理由ははっきりしているか 引用、要約はふさわしいところか 工夫したキャッチコピーだったか よさが伝わったか	・ 選んだ本のおもしろさを説明するために、ふさわしいところを引用したり要約したりしながら読んでいく。【読む】 ・ 相互評価シート ・ 紹介する本のよさや楽しさを伝えるために、内容や感想をひと言で表す、自分なりのキャッチコピーを考える。【言語】 ・ ポスター ・ 相互評価シート 紹介する本について、選んだ理由や説明するために引用したり要約したりした部分が、ポスターに適切に位置付けられている。【読む】 ・ 児童の付箋紙による相互評価 ・ 読んだ感想はどの叙述に基づいているか、自分の経験などどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。【読む】 ・ ワークシート														
第3次 (1時間)	5 作ったポスターを紹介し合い、読んで感想を述べ合う。 ・ 読んでみたい本の発表 6 教材文「がげ」を読み、キャッチコピーを付けて紹介し合い、交流する。 ・ 印象に残ったところ ・ これまでに学んだ物語文との比較 ・ 一人一人の感じ方についての違い	・ できあがったポスターのよさを見つけ、付箋紙に記入し貼らせる。 ・ 文章を読んで考えたことを発表させ、一人一人の感じ方に違いのあることに気付かせる。 ・ 本単元の学習を振り返り、これからの読書に生かしていきたいことを発表し、日ごろから本の紹介をし合うよう意欲付ける。															

新学習指導要領の下で、児童の生きる力につながる資質や能力をより確かにはぐくむために、学習指導及び学習評価の両面からの改善に意図的・計画的に取り組んでいくことが大切である。

【引用・参考文献】
『小学校学習指導要領解説 国語編』平成20年6月 文部科学省
『評価規準の作成のための参考資料(小学校版)』平成22年11月 国立教育政策研究所
『児童生徒の学習評価の在り方について(報告)』平成22年3月 文部科学省
『言語活動の充実に関する指導事例集(小学校版)』平成22年12月 文部科学省
『平成22年度小学校教育課程資料第3集』平成22年10月 鹿児島県教育委員会

(企画課)